

鉱物の楽しみ方ガイド③光沢



好きな鉱物は何ですか？いくつ答えてもいいですよ。

さて、どんな鉱物か？思い浮かびましたか？幾つも鉱物を挙げていくと、何かしらの共通点が見つかるのではないのでしょうか。気付けば同じような色ばかりだったとか、みんなキラキラしているなど、自分の好みが見えてきます。好きかどうかはやはり見た目が一番なところがあつて、色は分かりやすい要素の一つですね。他にも、どんなふうに光っているのかというのも大事な要素です。今回は輝き方に注目したいと思います。

光沢
鉱物の表面に光が当

たったときの輝き方を「光沢」と呼びます。鉱物によって特有の光沢を持つため、肉眼観察で鉱物を特定するときの判断材料になります。光沢は、鉱物に光が当たったときの反射率、屈折率、透明度など、鉱物の表面状態のさまざまなことが関係して決まってきます。数値化はできませんが、イメージしやすい名前がついています。7〜8種類の光沢の表し方がありますので、それらを見ていきましょう。まずは、金属光沢か非金属光沢かで分けるところからスタートです。

金属光沢
光沢は、金属光沢と非金属光沢の二つに大きく分けられます。金属光沢は名前の通り金属のような光沢で、不透明で光を通さず反射します。自然金や自然銅などの元素鉱物、黄鉄鉱や方鉛鉱などの硫化鉱物に多く見られます。

非金属光沢のいろいろ
非金属光沢は金属光沢の逆で、ある程度光を通して透明感があるものです。非金属光沢を表現する言葉はさまざまあります。

■ダイヤモンド（金剛）光沢
ダイヤモンドのように透明感があり、屈折率が高くキラっとした光沢で強い輝きを示します。ダイヤモンド、ルチル、閃亜鉛鉱など。

■ガラス光沢
ガラスのような光沢で、ほとんどのケイ酸塩鉱物がこの光沢を示します。水晶（石英）、螢石、トパーズなど。

■樹脂光沢
なめらかであたたかみのある光沢で、プラスチックに似た感じがします。琥珀（こはく）、硫黄、鶏冠石など。

■脂肪光沢
脂ぎった感じの光沢で、樹脂光沢よりも輝きが鈍く、透明度が低いです。蛇紋石、玉髄、滑石など。

■真珠光沢
半透明で、真珠のような柔らかな光沢です。白雲母、魚眼石、輝沸石など。

■絹糸光沢
絹糸の束のような艶やかな光沢で、繊維状の結晶が集まっているときに見られます。透閃石、纖維石膏、ウレ

ックス石など。
■土状光沢
乾いた土の塊が割れたときの断面のような質感を示します。カオリナイト、褐鉄鉱、ボーキサイトなど。

このように光沢の表現はかなり主観的で、定量的に表すことは難しいです。このコラムに鉱物の写真を幾つか載せていますが、光沢を写真で上手に表現することはなかなかできませんでした。同じ鉱物でも成分の違いや産地の違いで光沢の種類が変わることもあります。また、書籍によっても表現が異なることがありますので、この鉱物は〇〇光沢だ、というのを覚える必要はありません。今度鉱物を観察するときに輝き方にも注目してみてください、そういえば表現方法がいろいろあったなあと思ひ出してもらえたらいいなと思います。

現在、県立山口博物館3階展示室の一角で、コーナー展示「ちよこつと鉱物展」を開催しています。このほつとやまはくタイムで今まで紹介してきた鉱物を、連載記事と一緒に展示しています。会期が4月7日までと残りわずかですが、見に来てもらえたらうれしいです。

赤崎英里（学芸員・地学部門）
▽次回は17日です。



方鉛鉱（金属光沢）



閃亜鉛鉱（ダイヤモンド光沢、金属光沢、樹脂光沢）



螢石（ガラス光沢）



硫黄（樹脂光沢）



蛇紋石（樹脂光沢）



魚眼石（真珠光沢）



透閃石（絹糸光沢）



褐鉄鉱（土状光沢）

山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで。

